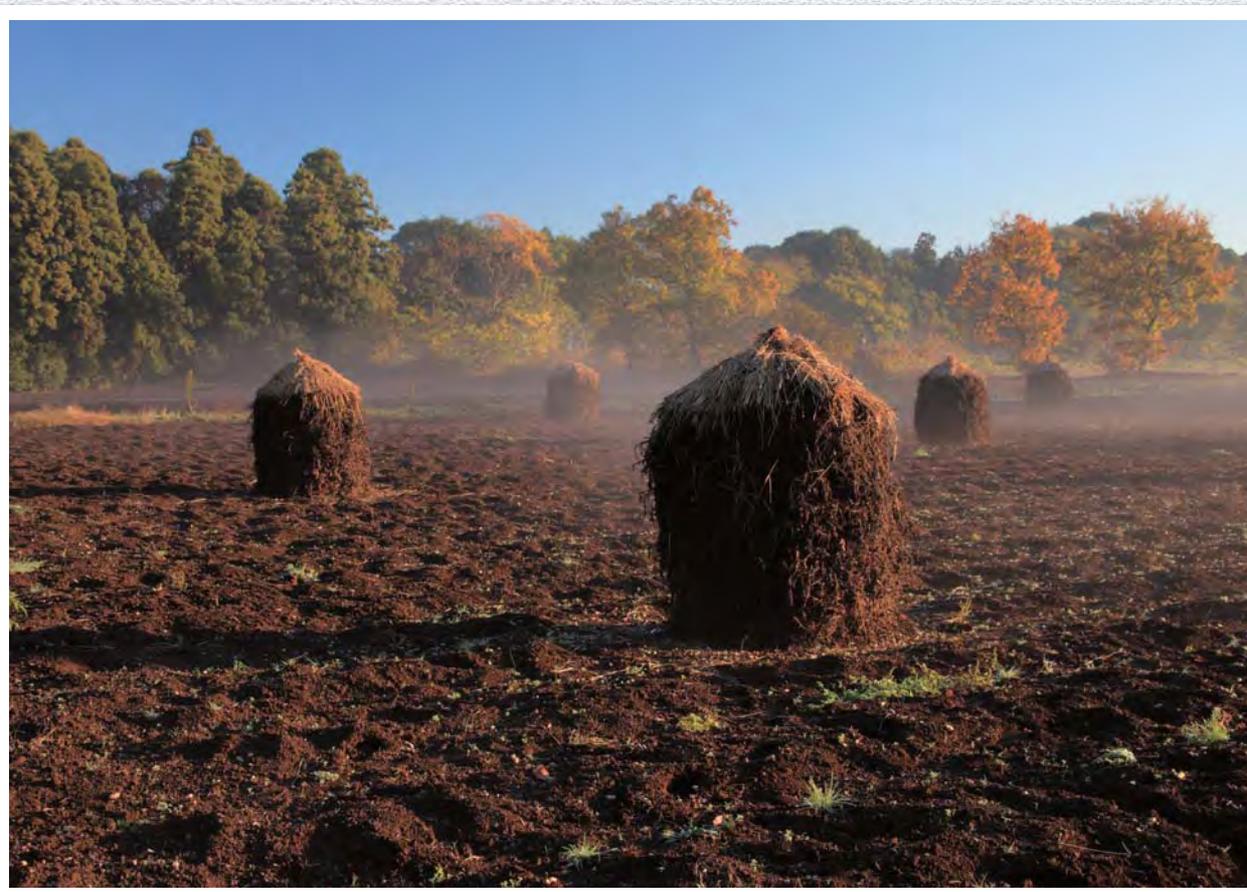




水土里 ネット ちば

2017
平成29年

No.316 / 秋号



第22回美しい農村環境写真コンテスト ちば水土里支援パートナー賞「ポッチのある風景」撮影場所：佐倉市 撮影者：鈴木 康雄

CONTENTS

□絵：城下町佐倉に来てみませんか

平成29年秋の叙勲等	01	・印旛農業事務所	12
「第2回日中土地改良技術交流セミナー」へ参加して	02	・山武農業事務所	14
平成30年度 農業農村整備事業関係予算概算要求の概要	04	・長生農業事務所	16
第40回全国土地改良大会(静岡大会)	06	第39回「全日本中学生水の作文コンクール」	18
両総土地改良区と松潟土地改良区の合併について	08	千葉県地方審査会入賞作文の紹介	
農業事務所だより		「緑化推進委員会(緑の募金)の森in吉崎浜」へ参加して	23
・千葉農業事務所	10	第23回美しい農村環境写真コンテスト	24
		結果及び作品紹介	



水土里 ネット 千葉 (千葉県土地改良事業団体連合会)

城下町佐倉に来てみませんか

印旛農業事務所

印旛農業事務所のある佐倉市は、江戸の東を守る要として栄えた11万石の城下町です。

佐倉城は、戦国時代中期の中世城郭を原形として、江戸時代初期の17世紀前半に築城された平山城です。

天守閣は、1813年に、泥棒が倒した行燈による火災で焼失してその後再建されませんでしたので、現存していませんが、現在は本丸、二の丸、三の丸などが残り佐倉城址公園として整備され、市民の憩いの場となっています。また、城郭の一部には、国立歴史民俗博物館があります。



▲国立歴史民俗博物館

江戸時代の城下町の雰囲気味わえる場所として、武家屋敷通りやサムライの古径ひよどり坂^{こみち}などがあり、武家屋敷通りには、3棟の武家屋敷が公開されています。

3棟の屋敷は、今で言う部長、課長、係長と身分の違う武士の住まいであったため、作りの違いを見つけるのも楽しいかもしれません。

3月中旬～6月末と9月中旬～11月末の土曜日、日曜日、祝日には、ボランティアガイドさんが常駐していますので、詳しい説明を聞くことができます。

このほかにも、旧堀田邸や佐倉順天堂記念館など見所がたくさんですので、江戸時代の雰囲気を味わいに、遊びに来てみませんか。



▲佐倉新町 おはやし館



▲サムライの古径 ひよどり坂



▲麻賀田神社



▲武家屋敷



▲武家屋敷通り

おめでとうございます

平成29年 秋の叙勲

旭日単光章

平成29年11月3日に秋の叙勲が発表されました。
 本会関係者からは鈴木利男氏(利根土地改良区理事長)が
 旭日単光章を受賞されました。



鈴木 利男氏
 利根土地改良区理事長



土地改良事業功績者表彰

全国土地改良事業団体 連合会長表彰

第40回全国土地改良大会(静岡大会)
 において、土地改良事業に貢献した方々が
 表彰され、千葉県からは高木甚一氏(佐原市
 石納野間谷原土地改良区理事長)が全国
 土地改良事業団体連合会長表彰を受賞
 されました。



高木 甚一氏

佐原市石納野間谷原土地改良区理事長
 千葉県土地改良事業団体連合会監事



平成29年文化の日 千葉県功労者表彰

文化の日にあたり、各方面でそれぞれ
 顕著な功績を挙げ、千葉県の発展に多大
 な貢献をされた方々が表彰されました。

本会関係者からは、森 重之氏(市原市
 加茂土地改良区理事長)が農林水産功労
 を受賞されました。



森 重之氏

市原市加茂土地改良区理事長



受賞されました皆様のご功績に対し謹んで敬意を表しますとともに、
 今後ともますますご健康でご活躍されますことをお祈り申し上げます。

「第2回日中土地改良技術交流セミナー」へ参加して

水土里ネット千葉 総務部 栗原 康浩

去る9月3日(日)から7日(木)にかけて「第2回日中土地改良技術交流セミナー」に参加しました。

このセミナーは、平成27年に全国土地改良事業団体連合会二階会長の意向を受け、西川公也前衆議院議員が訪中した際に提言されたことをきっかけに再開されたもので、両国が直面する政策的課題と技術的課題を解決するために土地改良分野の交流を一層進めていくことを目的に開催されているものです。

昨年度は、中国水利部の代表団が8月に来日し、北海道の現地視察と東京で技術交流セミナーが行われました。

今年度は中国での開催となります。参加者は農林水産省4名、農研機構1名、土地改良区関係16名、団体・民間企業9名、県1名の総勢31名の参加で中国に渡りました。

◆日本代表団行程◆

日 程	内 容
9月3日(日)	成田空港→成都空港(移動)
9月4日(月)	都江堰水利事業(現地視察:成都・都江堰)
9月5日(火)	龍泉山灌漑区・農民用水協力組織(現地視察:簡陽) 成都空港→北京空港(移動)
9月6日(水)	2017年度日中土地改良技術交流会議(セミナー:北京)
9月7日(木)	北京空港→羽田空港(移動)

9月4日、中国に着き最初の視察は「^{とこうえん}都江堰」水利事業です。「都江堰」は秦の時代に築造された水利施設で、世界遺産にもなっています。中国では「万里の長城」「南北大運河」「都江堰」を古代の三大土木工事と称されており、築造当時の役割を果たし続けているのは「都江堰」のみとのことです。農地の灌漑・排砂・水運・生活用水の供給などを果たす、昔の人の知恵を集結した構造となっています。



▲都江堰視察状況(参加者一行)



▲都江堰視察状況



▲農民用水協力組織との意見交換
(手前側が日本)

9月5日は四川省簡陽市の龍泉山灌漑区にある灌漑、観光、養殖、給水などの機能を有する基幹貯水ダムの一つである石盤ダムを視察後、農民用水協力組織との意見交換を行いました。日本側からの農民用水協力組織は中国全土にいくつくらいあるのか？農家の負担金は？作物は何をつくっているのか？などの質問に対し、協力組織は80,000組織以上、農家負担はなく、作物については、稲を一毛作で作っている等、基礎的な事柄をはじめとして幅広い情報交換がなされました。

午後からは、成都空港から北京空港へ飛行機での移動です。

9月6日は実質最終日となり、メインの「2017年度日中土地改良交流会議」になります。各国5名の代表者により、政策、技術など4つの議題について活発な意見が交わされました。

特に印象に残ったのは中国側発表の「中国農業水利権の確定と取引」、「伸縮目地なし、水路内面防浸コンクリートライニング施工技術」などです。中国では水利権(条件付き)が売買できることや、コンクリートライニングでは生態系への配慮をしていないことなど日本との違いに気づかされました。



▲日中土地改良交流会議
(手前側が日本)



▲日中土地改良交流会議
(日本側発表者と中国側質問者)

今回、第2回日中土地改良技術交流セミナーに参加させていただき、「日中友好が進みお互いが協力し合える関係が末永く続くことが一番重要ではないか。」と考えさせられました。

終わりに、この場を借りまして今回の交流セミナーに尽力くださった皆様に感謝申し上げます。

農業農村整備事業関係予算概算要求の概要

千葉県農林水産部 耕地課

農林水産省は8月31日、平成30年度予算の概算要求を財務省に提出しました。

農業農村整備事業関係予算については、農業農村整備事業3,793億円(前年度比123.0%)、農山漁村地域整備交付金820億円(前年度比117.0%)、農地耕作条件改善事業407億円(前年度比172.8%)を併せて5,020億円となり前年度当初予算より1,000億円(前年度比124.9%)の大幅な増となっている。

区 分	H29年度 予算額	H30年度 概算要求額	対前年度比
農業農村整備事業	3,084	3,793	123.0%
農山漁村地域整備交付金(農業農村整備分)	701	820	117.0%
農地耕作条件改善事業(非公共)	236	407	172.8%
計	4,020	5,020	124.9%

(単位：億円)

重点事項(農村振興局関係主な事項抜粋)

※各事項の下段()内は平成29年度当初予算

1 担い手への農地集積・集約化による構造改革の推進

(1) 農地中間管理機構による農地集積・集約化

- ① 農地の大区画化等の推進<公共> 1,328億円の内数
農地中間管理機構が借り入れている農地について、農業者からの申請によらず、(1,034億円の内数)
都道府県が、農業者の費用負担等を求めずに基盤整備事業を実施すること等
により、地域の特性に応じた農地の大区画化・汎用化等を促進
- ② 農地耕作条件改善事業 407億円
農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化や高収益作物への転換を (236億円)
推進するため、機構による担い手への集積・集約化が行われる地域等において、
農業者への負担を求めずに事業を実施すること等により、区画拡大等を促進

2 水田フル活用と経営所得安定対策の着実な実施

- 水田の畑地化・汎用化の推進<公共> 1,328億円の内数
平場・中山間地域等において、水田の畑地化や畑作物に軸足を置いた汎用化 (1,034億円の内数)
のための基盤整備を推進するとともに、転換に必要な水利用調整等を円滑に
進めるため、地区の負担軽減を図ることにより、高収益作物への転換を促進

3 強い農林水産業のための基盤づくり

(1) 農林水産基盤整備(競争力・国土強靱化)

- ① 農業農村整備事業<公共> 3,793億円
農地の大区画化・汎用化や水路のパイプライン化、老朽化した農業水利施設 (3,084億円)
の長寿命化・耐震化対策等を推進
- ② 農地耕作条件改善事業(再掲) 407億円
(236億円)

- ③ 農山漁村地域整備交付金<公共> 1,189億円
 地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防火・減災 (1,017億円)
 対策を支援 ※ (林野庁及び水産庁分を含む農林水産省全体の額)

4 農山漁村の活性化

(1) 日本型直接支払の実施

- ① 多面的機能支払交付金 495億円
 活動組織が農地を維持していくために行う地域活動や、地域住民を含む活動組織が (483億円)
 行う地域資源の質的向上を図る活動に交付金を交付
- ② 中山間地域等直接支払交付金 269億円
 中山間地域等における農業生産条件の不利を補正するため、条件不利地域での農業 (263億円)
 生産活動を継続して農業者等に交付金を交付

(2) 中山間農業の活性化支援

- ① 中山間地農業ルネッサンス事業<一部公共> 500億円
 条件不利性や鳥獣被害の増加など中山間地農業が置かれている状況を踏まえ (400億円)
 つつ、地域の特性を活かした多様な取組を後押しするため、多様で豊かな農業と (優先枠等を設けて実施)
 美しく活力ある農山村の実現や、地域コミュニティによる農地等の地域資源の
 維持・継承に向けた取組を総合的に支援
- ② 中山間地域等直接支払交付金(再掲) 269億円
 (263億円)

(3) 「農泊」の推進と農山漁村の振興

- ① 「農泊」の推進 75億円
 増大するインバウンド需要等呼び込み、農山漁村の所得向上を図るため、「農泊」をビジ (50億円)
 ネスとして実施できる体制の構築、地域に眠っている資源の魅力ある観光コンテンツと
 しての磨き上げ等の取組や古民家等を活用した滞在施設、農林漁業体験施設等の整備を
 一体的に支援
- ② 農山漁村振興交付金 120億円
 都市と農山漁村の共生・対流の促進や地域の活性化、地域資源の活用等による山村の (101億円)
 活性化、農福連携の推進、都市農業の多様な機能の発揮、定住・地域間交流や雇用の
 増大を促進するための取組を支援

(4) 鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の推進

- 鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の推進 153億円
 鳥獣被害対策実施隊の増設・捕獲活動の実施、侵入防止柵の設置等による鳥獣被害防止 (97億円)
 とともに、安全で良質なジビエの提供を実現するため、捕獲から搬送・処理加工がつなが
 ったモデル地区の整備を支援するほか、森林被害防止のための広域・計画的な捕獲や新
 技術実証、ジビエ利用に向けた情報提供等を実施

(5) 再生可能エネルギーの導入・活用促進

- 再生可能エネルギー導入等の推進 32億円の内数
 再生可能エネルギー事業によるメリットを地域の農林漁業の発展に活用する取組、 (27億円の内数)
 農業水利施設を活用した小水力発電等に係る調査設計、地域のバイオマスを活用
 した産業化等に必要な施設整備等を支援

第40回全国土地改良大会(静岡大会)に参加して

大会テーマ

”ふじのくに”で語ろう 土地改良が創る豊かな水土里を

水土里ネット千葉 総務部 栗原康浩

10月24日から26日にかけて全国土地改良大会静岡大会に参加しました。

静岡県といえばまず、富士山、緑茶、みかん、伊豆半島、浜名湖、うなぎパイ?などが思い浮かびますが、今回の大会の開催地は、駿河湾を臨む伊豆半島の付け根に位置する沼津市です。古来から東海道の宿場町として栄え、また情報の交流拠点として、文化の中心的役割を担ってきたこの場所は、この大会に相応しい場所と思われる。

25日は、その沼津市のプラサヴェルデ(ふじのくに千本松フォーラム)に全国の農業農村整備事業関係者4,200名余りが一堂に会し、全国土地改良大会(静岡大会)の開催です。千葉県からは関東管内(関東農政局管轄内)の開催ということもあり、179名が参加しました。

大会式典は、開会宣言に始まり、国歌斉唱、静岡県土地改良事業団体連合会の伊東真英会長によって開会挨拶、主催者の

全国土地改良事業団体連合会の二階俊博会長の挨拶があり、開催地を代表して静岡県の川勝平太知事及び沼津市の大沼明穂市長から歓迎のことばがありました。その後、来賓として農林水産省の谷合正明副大臣、静岡県議会の杉山盛雄議長並びに参議院からは進藤金日子議員より祝辞がありました。

次に土地改良事業功績者表彰があり、千葉県からは、佐原市石納野間谷原土地改良区の高木甚一理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。

基調講演では、「次世代につなぐ資産づくり」と題して農林水産省農村振興局室本隆司次長より”これからの土地改良が目指す方向性”について話がありました。

その後、優良事例地区として以下の紹介がありました。

●清水農業協同組合

「JAしみずにおける農業農村整備取組事例～守りから攻めの農業～」

●農業生産法人 遠州森 鈴木農園株式会社

「水田を3倍活用した魅力ある農業の展開」

土地改良応援講演では女優の工藤夕貴さんが登壇し、身土不二のすすめと題し「食と農が作る健康寿命」について講演されました。



▲第40回 土地改良大会静岡大会 開会



▲二階全土連会長挨拶

さらに、大会宣言では、静岡県東部稲作研究会会長・JA御殿場青壮年部委員長の横山泉氏により、「農山村の土台を創る“土地改良”にしっかりと取り組んでいく」と力強く宣言がなされました。

最後に、次期開催地である宮城県土地改良事業団体連合会 亀谷久雄副会長から挨拶があり、閉会となりました。



大会翌日の26日は畑地帯基盤整備事業、三島市・箱根西麓地域の事業視察を行いました。

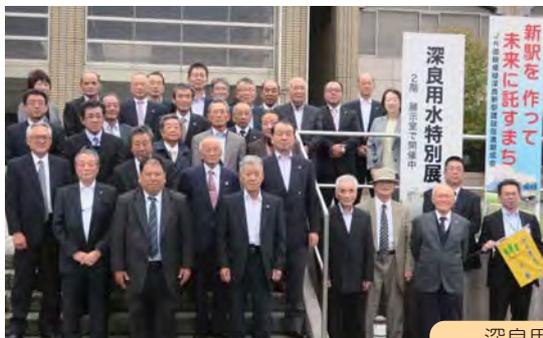
この地域は箱根連山の西南に位置しており、黒土で水はけが良く、保肥性が良いため野菜の栽培に適しています。三島市の山田～山中、佐野で採れる野菜は「箱根西麓三島野菜」と呼ばれ、味と品質の高さから首都圏へ多く出荷されているとのこと。



箱根西麓地域視察にて

なお、大会前日の24日には千葉県独自で、世界かんがい施設遺産の深良用水特別展を視察しました。

深良用水は芦ノ湖の水を静岡県側に流すために湖尻峠の下に掘られたトンネルで、寛文10(1670)年2月25日に貫通し、4月25日に通水しました。建設は、先人の技術を駆使し、自然の恵みを利用した歴史的な大事業でした。340年以上経過した現在も裾野市、長泉町、清水町、御殿場市の約530haの農地を潤し、地域農業を支えています。



深良用水特別展視察にて

今回の大会に参加し、改めて“農業・農村の特徴や果たしている役割”の認識を新たにすることができました。

最後に、本大会の準備・運営をしていただいた静岡県土地改良事業団体連合会はじめ関係者の皆様には大変お世話になり、本誌面をお借りして感謝申し上げます。

両総土地改良区と松潟土地改良区の 合併について

両総土地改良区・松潟土地改良区統合整備推進協議会
(山武農業事務所 次長 米島隆裕)

1. はじめに

平成29年9月6日、両総土地改良区と松潟土地改良区の合併予備契約調印式が、両土地改良区関係者、推進協議会会員・参与、また来賓として県農林水産部長、関東農政局利根川水系土地改良調査管理事務所長を迎え、一宮館において行われました。

今後、両土地改良区での総代会決議を経て合併契約としてその効力を生じ、4月1日からは新たに松潟支部を設立し、新生「両総土地改良区」としてスタートする予定です。



▲調印・立会者の皆さん

2. これまでの経緯

平成5年から26年の間に実施されました国営両総用水事業では、施設の改修に加え東部幹線用水路や栗山川統合機場等の新設、松潟土地改良区が管理してきた松潟堰、松潟揚水機場の改修も行われました。このため、今後の管理方法と費用負担等について、両土地改良区での協議が開始されました。

その結果、松潟堰、松潟揚水機場を基幹水利施設管理事業による両総施設として管理することを前提に、双方の理事会において合併に向け協議をしていくことが承認されました。



▲両総土地改良区の皆さん

その後、同様の状況にあった、山武郡東部土地改良区と両総土地改良区が平成25年に合併したことにより、協議が活発化します。

平成26年8月5日に、両土地改良区に加え、一宮町、長生村、白子町、山武農業事務所、長生農業事務所、参与の千葉県土地改良事業団体連合会、県農地・農村振興課からなる「両総土地改良区・松潟土地改良区統合整備推進協議会」を設立し、6回の幹事会検討を経て、

平成29年2月21日の協議会総会で統合整備計画概要案、7月の幹事会で合併予備契約書案を承認し、それぞれの土地改良区理事会の承認を得て調印式に至った次第です。

ここに至るまでの両土地改良区役職員の並々ならぬ御努力と御英断に改めて敬意を表すところであります。

3. 運営基盤の強化に向けて

合併により財務管理、施設管理、農地集積等の受益農地管理、人材育成の強化が図られ、組合員には負担金の軽減等のメリットがある他、これに加え、規模拡大による行政との連携強化も期待されます。

土地改良区は農業水利施設等の適正な管理を行うことを基本としていますが、日本型直接支払、農地利用集積、水田フル活用や高収益化等の農業取り巻く諸課題への対応も期待されています。

こうした中、今後進められる土地改良区のあり方についての議論の行方も気になるところですが、改良区が土地改良区であり続け、様々な組合員ニーズや農業の諸課題に添えていくため、改良区の状況に応じ、合併、農地中間管理機構の業務受託、地区内実耕作者調査等の検討、土地改良区体制強化基本計画の見直し等を進め、更なる運営強化を図っていただければ幸いです。

合併する土地改良区の状況 (H29.4.1現在)

	合 併 前		合 併 後
改 良 区 名	両総土地改良区	松潟土地改良区	両総土地改良区
設 立 年 月 日	昭和27年7月5日	昭和27年6月6日	昭和27年7月5日
地 区 面 積	17,547 ha	682 ha	17,547 ha
組 合 員 数	21,085 人	1,201 人	21,085 人
役 員 数	25 人	13 人	25 人
職 員 数	49 人	1 人	49 人

※両土地改良区は地区が重複しているため、地区・面積等に増減は生じません。



▲松潟土地改良区の皆さん

養老川下流土地改良施設における 対策事業の実施について

千葉農業事務所

養老川は、千葉県夷隅郡大多喜町の清澄山北東部に源を発し、約73キロメートル先の市原市五井寄りの東京湾に注ぐ県内有数の二級河川です。兩岸には当河川を水源とする土地改良区や水利組合の受益農地が多数はり付いており、昔から地域の農業者にとっては営農上不可欠な存在となっています。

一方、改修前の養老川は大雨等で流量が増すと度々氾濫を起こし、沿岸部の民家等が浸水被害を受ける等の災害にみまわれていたため、平成元年頃から護岸の改修工事や高滝ダムの建設等の対策工事が各所で行なわれました。その結果、沿岸部の浸水被害は激減したものの、上流からの土砂供給が無くなったことで、年々河床の低下が進行し問題となっていました。

その影響で、護岸部基礎が露わになり、背面土が吸出しを受けて、平成26年には西広堰さいひろの右岸が崩壊し、その下流の廿五里堰ついでいじは護岸背面の陥没が発生しており同様の被災が懸念されています。

前者の対策としては、平成27年度から農業用河川工作物等応急対策事業 西広堰地区による復旧工事が実施され、今年度で無事に完了する予定です。後者の対策としては、平成30年度新規として同事業廿五里堰地区が始まることになっています。

上記工事は、当該箇所の対策のみに限られてしまうことから、今後も同様の災害が発生する危険性を残しています。引き続き、河川管理者である市原土木事務所のほかにも関係行政機関や関係農家が日頃から現地各所の変状を注意深く監視していくことが防災上重要になります。

- 農業用河川工作物等応急対策事業 西広堰地区
- 事業工期 平成27年度～平成29年度
- 事業内容 護岸復旧 L=45m
- 総事業費 313,650千円

- 農業用河川工作物等応急対策事業 廿五里堰地区
- 事業工期 平成30年度～平成31年度
- 事業内容 吸出し防止工 L=36m 積みブロック工 L=43m
- 総事業費 85,000千円

西広堰



▲西広堰



▲堰護岸崩壊状況



▲堰護岸崩壊状況

廿五里堰



▲廿五里堰



▲護岸背面に出来た陥没穴



▲陥没仮復旧後

印旛農業事務所管内の ストックマネジメント事業

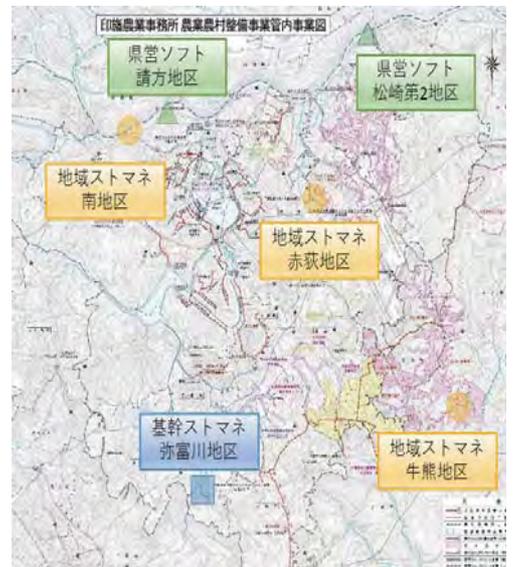
印旛農業事務所

印旛農業事務所は、12の市町と31の土地改良区を管内とした、千葉ニュータウン、成田ニュータウンなどの大規模住宅地や成田国際空港周辺の開発、東関東、圏央道などの交通ネットワークの整備による都市化が進んだ地域と利根川周辺や印旛沼周辺の水田地帯、北総台地の畑地帯などの農村部と両方の顔を持つ事務所です。

当事務所管内の農業を支えてきた揚排水機場や水路なども、老朽化が目立ってきており、対策の必要な施設が増えてきております。

今回は、印旛農業事務所でのストックマネジメント事業の取り組みを紹介したいと思います。

今年度、印旛農業事務所では、基幹ストマネ1地区、地域ストマネ3地区、ストマネ事業の事業化を目指したソフト事業として2地区が、実施されています。



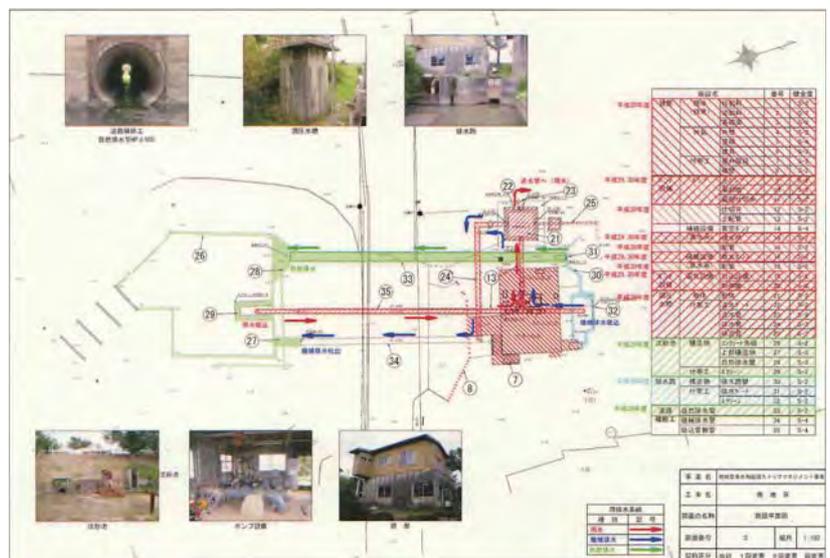
●地域ストックマネジメント事業 南地区

- 事業主体 印旛郡栄町南外四大字土地改良区
- 関係市町村 栄町
- 事業工期 平成26年度～平成30年度

昭和45年度に、団体営かんがい排水事業で整備した施設です。

ストマネ事業では主に、南揚排水機場の整備を行います。

- ・平成26年度：設計
- ・平成27年度：設計
- ・平成28年度：沈砂池と
自然排水樋管(緑色)
- ・平成29年度：排水路(水色)
ポンプの製作(赤色)
- ・平成30年度：建屋とポンプの
据え付け(赤色)



●地域ストックマネジメント事業 赤荻地区

- 事業主体 成田用水土地改良区
 - 関係市町村 成田市
 - 事業工期 平成27年度～平成29年度
- 県営ほ場整備事業で実施した施設を整備しているのですが、受益面積が48haと基幹ストマネの事業要件100haを下回るため、地域ストマネでの実施となりました。

機能保全計画に基づき、赤荻反復機場建屋、ポンプ設備、ゲート設備、野毛平4,5号水槽及び付帯施設の補修、更新を行います。

施設の現況



赤荻反復機場主ポンプ
異音発生、主軸腐食、漏水



赤荻反復機場(建屋)
外壁塗装劣化



赤荻ゲート
扉体発錆、変形



●地域ストックマネジメント事業 牛熊地区

- 事業主体 成田用水土地改良区
- 関係市町村 横芝光町、芝山町
- 事業工期 平成29年度～平成30年度

昭和45年に団体営かん排で、パイプラインを整備しました。機能保全計画に基づき、高谷川を横断する水管橋と吐き出し水槽を整備します。

施設の現況



高谷7号水槽
施設外観



高谷7号水槽
内部配管発錆状況



牛熊水管橋
施設外観



牛熊水管橋
水管橋穿孔状況



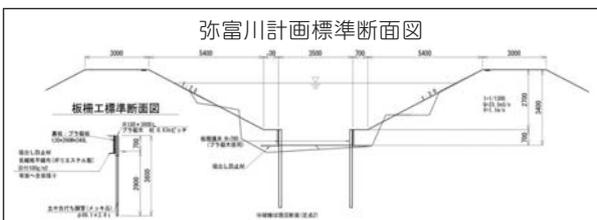
●基幹水利施設ストックマネジメント事業 弥富川地区

- 事業主体 千葉県
- 関係市町村 佐倉市、八街市
- 事業工期 平成29年度～平成32年度

現施設は、昭和60年に県営かん排で水路の通水断面の拡大などの整備を約1.4km実施しました。しかし、護岸は、木柵で実施されていますので、整備から32年が経過して、劣化が進んできており、法面の崩壊などが発生しております。



今回のストマネ事業では、木材からプラ擬木とコンクリート矢板に変更して、洗掘されやすいカーブには、法面にブロックマットを敷設します。



基幹水利施設ストックマネジメント事業 両総松尾支線地区の紹介

山武農業事務所

事業概要

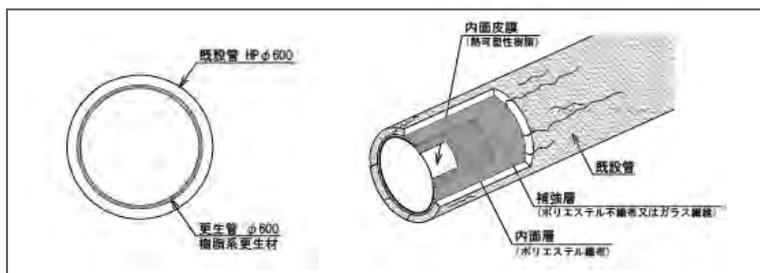
本地区の用水源は、昭和18年～40年に施工された国営付帯県営両総松尾支線に頼っていますが、主要施設は築後50年以上が経過し、施設の老朽化により、安定的な用水供給に支障をきたしています。また、農地への漏水被害も生じ、維持管理や補修などに多大な労力が発生しています。以上のことから用水機能の保全を図り、水田の利用効率を高め、農業経営の安定化と地域農業経営の合理化を図ることを目的としています。



事業内容

- サイフォン工(管更生工法) L=980.8m
- 付帯施設工

空気弁工	2箇所
ゲート工	1箇所
揚水機工	1箇所

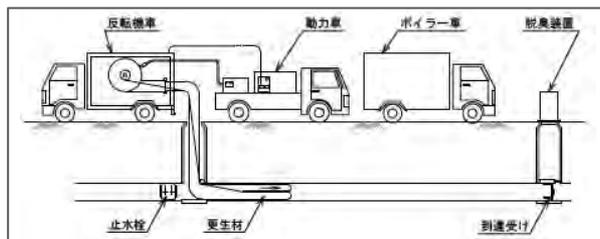


▲管更生工法

整備概要

平成28年度に基幹水利施設ストックマネジメント事業として採択され、現在測量や実施設計を行っています。事業の対象とする施設は築後50年以上経過しており、当時の資料からは用水管の正確な位置の特定が難しく、その埋設箇所を特定することが重要課題となっております。

主要工事に関しましては、用水管(ヒューム管φ600mm)の補修を想定しています。現在、実施設計業務により主要な工法を検討していますが、現段階で有力な工法として管更正工法による補修が挙げられます。管更生工法とは、老朽化した埋設管の内面を樹脂等でコーティングすることにより、漏水していた箇所を塞ぐことができる他、内面の平滑性を向上させ通水を潤滑にさせることができます。また樹脂にガラス繊維等を合成させることにより更正管自体に強度を持たせ自立管として施工することも可能となっております。今回対象としている施設は、管自体の老朽化も激しいことから、管更正工法で施工する場合には、更正管を自立管として施工する予定です。ただ、管更正工法にも埋設管の曲がりの角度による制約や、内面コーティングによる通水断面の低下等もあるため、設計流量や既設管の配管状況など様々な角度から確認を行い、最終的な工法を決定します。



▲管更正工法施工例



また、本事業では既設管の補修の他に老朽化した付帯施設の更新も行います。6号分水工ではゲートの更新のほか発錆が見られるネットフェンスも更新し、7号分水工では揚水ポンプφ100mmの更新を行います。

空気弁▶



▲6号分水工



▲7号分水工

課題・問題点

前述したとおり本地区の用水管は、正確な位置がまだ把握できておらず、その埋設箇所には民地も含まれています。用水管が民地の下に布設されている場合、区分地上権の設定を行い、管の保護を行わなければなりません。そのため実際に試掘等を行い、用水管の位置の特定を優先的に行っていきます。土地改良区や地元の方の協力を得ながら工事着工に向け進めていきます。



▲地区内風景(民地下の用水管埋設箇所)

おわりに

両総松尾支線地区の用水管及び付帯施設は、老朽化が著しく、漏水被害も発生しておりますが本地区を支える重要な用水施設であることから一刻も早い工事の着工に向け進めていきます。



かんがい排水事業新川地区竣工

長生農業事務所

1 管内の概要

当事務所の管轄地域は、茂原市、長生郡一宮町・睦沢町・長生村・白子町・長柄町・長南町の1市5町1村からなり、東を太平洋、西を市原市、南をいすみ市、夷隅郡大多喜町、北を大網白里市、千葉市に接しています。また、東部は九十九里平野、西部は丘陵地帯となっており、標高0～60mのなだらかな地形の間を一宮川・南白亀川が流下しています。

農業用水は、主要河川である一宮川・南白亀川からの取水と平成26年度に農林水産省による更新事業が完了した両総用水に依存する割合が高くなっています。一方、古くから農業用水の確保のために築造されてきたため池が249か所あり、現在も大切に活用されています。

農業用排水においても、そのほとんどが一宮川・南白亀川を経て太平洋に排水しています。海岸地域においては、主要河川の河川水位が高いため、自然排水ができず、常時排水においても機械排水に依存しています。また、農業用排水路の下流部では、地盤沈下の影響や近年の降雨量の増加で、洪水時には氾濫し農地が湛水して農作物への被害も発生しています。



▲長生農業事務所の概要

2 かんがい排水事業新川地区の概要

1) 背景

本地区は、千葉県東部を流下する二級河川南白亀川の下流部に広がる低平地の水田地帯を受益地としており、昭和40年代から昭和60年代にかけて、ほ場整備事業などにより30aの区画に整備されています。その幹線排水路として整備された「新川」は、近年の降雨量の増加に伴う断面不足や地盤沈下の影響による水位の上昇により、洪水時には氾濫し、湛水被害を生じるようにな



▲洪水時の状況(改修前)

りました。このため、排水路改修と併せて局所的に通水阻害の要因の一つである橋梁と水門の改修を行い、湛水被害を防止し、施設の維持管理コストを低減させて、農業生産性の向上と農業経営の安定を図るため、本事業により改修することとなり、平成18年度に事業に着手し、ようやく平成28年度に工事が完成しました。



▲新川地区 計画平面図



▲完成した水路

2) 事業の概要

- 事業量：排水路工 L=3,134m
- 総事業費：1,535百万円(工事雑費を含む)
- 事業期間：平成18年度から平成28年度
- 受益面積：519.7ha
- 関係市町：茂原市、長生郡白子町
- 関係土地改良区：両総土地改良区

3 おわりに

平成11年度の基礎調査開始から、平成28年度の工事完成までの長期間を要してようやく完成することができました。地元の方々と関係機関のご協力により完成したものと感謝いたします。

「新川地区」は、排水改良を目的とした土地改良事業であり、乾田化や水害防止などの効果を見込んでいます。今後は計画作物の作付の実現に向けて地域の皆さまのご協力をお願いします。



▲完成した水路

「水の日」及び「水の週間」関連行事

第39回

「全日本中学生水の作文コンクール」 千葉県地方審査会入賞作文

千葉県総合企画部水政課

「水の日」及び「水の週間」は、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する国民の関心を高め、理解を深めるため、昭和52年の閣議了解により政府が決めました。

年間を通じて水の使用量が多く、水についての関心が高まる時期である8月の初日を「水の日」（8月1日）とし、この日を初日とする一週間（8月1日～7日）を「水の週間」として、ポスターによる啓発や講演会の開催など水に関する各種の行事が全国的に毎年実施されています。

また、平成26年7月に施行された水循環基本法においても、国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解や関心を深める日として、8月1日を「水の日」と定め、同法により国及び地方公共団体は、水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならないとされたところです。

次代を担う中学生を対象に『水について考える』をテーマとした「全日本中学生水の作文コンクール」は、「水の日」及び「水の週間」の行事の一環として、国及び都道府県の共催で実施されてきました。

39回目を迎える今年は、県内在住・在学の中学生から、日常の生活経験や学習を通じて得られた水の貴重さ、水資源開発、水の様々な用途への安定供給や環境保全等の大切さなど中学生らしい視点でまとめられた627編の応募がありました。

県では、去る8月3日に、千葉県地方審査会で選ばれた優秀な作文10編について、県庁で表彰式を行いました。

ここに、最優秀賞及び優秀賞の作文4編をご紹介します。また、表彰式の様子や入賞作文は、千葉県ホームページでご覧いただくことができます。

URL:<http://www.pref.chiba.lg.jp/suisei/sakubun/index.html>

入賞作文をご覧いただくことで、私たちが普段の生活ではあまり考えることのない「水」について、もう一度考えてみるきっかけにいただければ幸いです。

最優秀賞

家の排水も川の源流

昭和学院中学校 1年

さくら い あき
櫻井 暁

中学生になってから、私の昼食は母が作るお弁当になった。だから、どんなおかずが入るのか楽しみで、母が料理を作る様子を以前よりもよく眺めるようになった。そんなある日、母が肉を焼いた後、フライパンに残った油を新聞紙でふき取ってから洗う様子を見た。なぜ母は全部水で洗い流さずに、こんな面倒なことをするのだろうか。私は気になって母に理由を聞いた。すると「排水をなるべく汚さない為」という答えが返ってきた。母に言われて、私は小学校の社会科で下水処理場について勉強したことを思い出した。でも、たった一枚のフライパンに残った油が、そんなに水を汚すものだろうか。毎日見ているニュースでも、真夏の水不足についてはよく取り上げられるのに、排水に関わる内容はあまり聞いた覚えがない。そこで、私は水を汚す原因について調べることにした。

まず、過去の水質汚染について調べると、水俣病やイタイイタイ病など、工業排水による重大な健康被害があったことが分かった。これらは歴史の授業でも習っている。そして、今では法律の整備が進み、工業排水による水質汚染は減少し、日本国内ではかなり改善されているようだ。

では、現在は何が水を汚す大きな原因となっているのだろうか。水道局のホームページなどを調べると、それは生活排水であることが分かる。生活排水とは、台所で食器を洗ったり、服を洗濯したり、風呂やトイレで使って流した水の事で、普通に暮らしていれば必ず出る排水だ。つまり、私自身も知らず知らずのうちに水を汚している一人だと気付いて、私はショックを受けた。私にとってはたった一枚のフライパンであっても、もし五千万世帯以上ある日本の各家庭でそれぞれフライパンを洗えば、それが集まって水を汚す大きな原因を作る。だから母は、フライパンを新聞紙でふき取っていたのだ。

生活排水をゼロには出来ない。でも減らすことは出来る。減らす為に、私は何をすれば良いのだろうか。そう思って私にも出来そうな対策を探すと、いくつかの方法が見つかった。例えば、お弁当箱を洗う時は、ごみをそのまま流しに捨てないように気を付けること。更に、汚れは出来るだけ拭き取ってから洗うこと。制服のシャツのえりや袖口は、部分洗いをしてから洗濯すること。お茶やおみそ汁は残さずに飲みきって、排水に流さないこと。これらは母に教わり、そうするものだと思って、すでに私自身が毎日行っていることだった。また、新しい方法も見つかった。それは洗剤の使い過ぎだ。多めに使えばもっときれいになるような気がして、ついたっぷり洗剤を使っていたが、これからは適量を使うように心がけようと思う。これらは簡単で、みんながほんの少しだけ気を付ければ出来ることばかりだ。きっとまだ他にも良い方法があるに違いない。

私が蛇口をひねって使った水は、排水になり、やがて海へとたどり着く。そしていつか雨になり、川の流れとなって、浄水場を経た後私の元に戻ってくる。水は循環している。だから、家の排水も川の源流と言えるはずだ。私の住む千葉県は、利根川や江戸川の下流にある。もし川の上流で生き物に影響を及ぼすような排水を流されてしまったら、私の飲む水も失われる。同じように、私が自分の都合だけを考えてフライパンの油を排水として流せば、その水に暮らす多くの生き物に対して影響を与え、いつか自分自身にも跳ね返ってくる。

水環境を守ることは、私自身が安心して飲める水を守ることにもつながっている。だから、これからは水の無駄づかいを防ぐだけではなく、出来るだけ排水も汚さないように努力をしていきたい。それが本当に「水を大切にすること」なことなのだ。

優秀賞

「水への思い」

八千代松陰中学校 2年

おだ ゆうみ
小田 優海



「水に感謝して大切に使わなければいけない。」
私が幼少の頃から、祖父に教えられてきた言葉です。

私の祖父は、およそ四十年、水処理の仕事にたずさわってきました。セールス・エンジニアとして働き、いろいろな工場などの現場に出向き様々な水処理、水質管理の仕事をしてきました。祖父から聞いた体験談は、とても興味深く「水」の奥深さを感じます。

「水」は、いろいろな場所や工場に使用されます。時に製造用水として食品や飲料、また医薬品などに使用されていて、私の想像以上の大量の水が消費されていました。半導体工場などで使用される洗浄水もあります。それらの用水は、厳重な水質管理が必要です。祖父はよく、

「現場で上手くいかない時もあるけど、徹夜で作業したこともあったけど、振り返ると楽しい経験だった。」

と、笑顔で話していました。私は、そんな祖父が誇らしく見えました。

私は、全てと言っていい程に、製造には水が不可欠で必要だと思います。そして、その業態に合わせ、それぞれの用水が必要な事。スーパーに並んでいる商品を安心して口にできるのは、徹底した衛生や品質管理そして、きちんと安全に処理された製造用水のおかげだと思います。また日本は、製造業が盛んな国。そこでも製造用水が重要なのです。何より、世界に誇れる半導体技術にも洗浄水が重要な役割をしています。きちんと厳重な水質管理をする事が出来る水処理技術のおかげでもあると言っていいのではないのでしょうか。

日本の水は安心とよく耳にします。それは、日本

の水の処理、浄水技術のクオリティが高いからだと思えます。きっと祖父の世代の人達が、それぞれの技術を確立していき日本の産業を盛んにしたのだと思えます。

そして祖父は言います。

「水は、限りのある資源。日本の気候や地形、何より天からの恵みの雨。それに感謝しなければいけない。」

水の仕事にたずさわって、水を大切に思う祖父の心からの言葉だとわかります。世界では、雨が降らず水不足で危機的状況にある国、水の処理や浄水技術がまだ発展せず衛生問題を抱えている国があり、日本の企業なども応援しているようですが、まだまだの現状です。

日本は、とても恵まれた国です。生きていく上で欠かせない水。その「水」が、常に安全で安心して口にすることができるのですから。確かに祖父の言うように、日本の気候や地形、天からの恵みの雨にももちろん感謝していますが、安全で安心な水にするために、たくさんの技術を持って働いている人達、その人達の思いによって安心かつ衛生的に過ごすことができています。水にたずさわる仕事をされている皆さんの思いを考えると、「大切な水」。決して水を無駄に使うことなどできないのです。

私達が豊かに生活できるのは、日本が水に恵まれ、水の処理技術により、衛生的な国だからです。そして厳重な水質管理によって、日本の産業も発展しました。今の時代を築いてくれた祖父の世代の人たちにも感謝をしたいと思います。これから、私達も地球や自然に優しいeco生活し、限りある資源と常に意識し、受け継いだ安全を大切に向上してくよう努めなければならないと思えます。

優 秀 賞

生きる力を支える水

八千代松陰中学校 3年

すぎの
杉野 舜

私は毎日、陸上の練習に励んでいます。練習中に飲む水は、何とも言いようがないほどおいしく、身体のすみずみまで潤っていきます。体の細胞が喜んで、生き生きしているような気持ちにさえなります。

しかし、世界の中には、私が毎日当たり前のようになっている水が大変貴重であるという事実を知り、強い衝撃を受けました。

例えば、マダガスカルのあるサッカー選手は、遠く離れた不衛生な川から水をくんで利用する以外に水を手に入れる方法がないため、何時間も水を飲まずに、サッカーの練習をしたそうです。晴れた日に激しい運動をしたことのある人であれば、その厳しさが容易に想像できます。また、何百キロという長い距離を走るサイクルロード選手も、何十キロも離れた場所から水をくんで水分補給を行わなければならないといえます。水が確保できなければ、前に進めず、練習を断念せざるを得ないそうです。蛇口をひねれば、きれいな水があふれ出てくる日本と違って、まだまだ厳しい現実に直面している国がたくさんあるのです。それと同時に、私はおいしい水に囲まれて、なんと素晴らしい環境で生かされているのだと改めて自分の境遇に感謝しました。

私はこのことをきっかけに、世界の全ての人々がきれいな水を飲むことができるような活動に心がひかれました。役所の窓口やインターネットを使って、自分ができボランティア活動がないか調べました。調べていくと、世界的な活動でも、自分のお小遣いの範囲で募金を行うことができ、救われていく命があることが分かりました。私は両親を通じて募金をしました。その時、私の心はじわっと暖かい気持ちになりました。私の行ったことはまだまだ小さな一歩で自己満足に過ぎません。しかし、私は将来、小学校の教師になる夢があります。そしてまだまだ発展途上にある国々へ教師として行って子供たち

とたくさんの方のことを学び、ともに成長したいと思っています。一緒に広い大地を走り回りたいのです。そして、全ての子供たちが、きらきらと命あふれる姿で生きていることを目の当たりにしたいと思っています。そのためには、当たり前のようきれいな水が飲めるような環境がまず必要です。飲みたいときおいしい水が飲めることを切に願っています。私はこれからも少しずつですが、自分の出来ることを一生懸命行っていきたくと思っています。

先日、自分が通っている八千代市でも、水をきれいにするボランティア活動が随時行われていたことを知りました。印旛沼の水質を守るためのクリーン活動でした。学生の方々も積極的に参加しているようでした。このように、身近なところにも水をきれいにできる活動があることを知って嬉しく思いました。学生でも出来る活動が調べていけば多くあると思います。学生だから、子供だから、たいしたことが出来ないのではなく、少しずつでも社会に貢献できることはあると思います。ボランティア活動に友達や後輩を誘うことで、継続的な活動を支えていく場合もあります。また、学生が社会人になった時、このような経験を活かして非営利団体のパートナーとして活動を引っ張っていく可能性だってあるかもしれません。

千葉県には「ちばアクアラインマラソン」、また二〇二〇年には誰もが心待ちにしている東京オリンピックやパラリンピックの開催といった、世界各地の選手やボランティアの方々が多く集まる機会がこれから控えています。熱く走っている方々が、「千葉の水はなんておいしいのだろう」と驚嘆するほどの自慢の水をぜひ飲んでほしいと思います。いつもそのような水であることを願っています。私も千葉の水は自慢です。これからも自分の夢を実現していくために、今出来ることを一歩一歩、確実に進めていきたくと思っています。

優秀賞

水のある暮らし

千葉市立稲毛高等学校附属中学校 3年

かじ お けん た
梶尾 健太



部活のサッカーで汗をかき、その後に飲む学校の水道の水は本当においしい。走って疲れた体に水が行きわたって、再び走る元気を取り戻せる。

私は、小学生の時に柏井浄水場を見学したことがある。その時に聞いた話をきっかけに水に関して興味を持ち、活動していた。

家庭から出る排水に気をつけることで浄水場で水をきれいにする手間や水、お金がかからなくなると聞いたので、毎日夕方米のとぎ汁をプランターの植物にかけていた。他にもしょう油やソースなどの調味料を使いすぎて排水に流さないようにしたり、風呂掃除はメラミンスポンジを使い、油污れではない食器は、アクリル毛糸で編んだたわしで洗い、洗剤を使用する量を減らしたりするようにした。

夏休みの自由研究では、水道水に消毒のために使用される塩素をなくす方法を探すとというものに取り組んだこともある。屋外で直射日光にあてたり、レモン汁を入れたりした水は、残留塩素のパックテストで塩素の反応をしなかったことにわくわくしたのを覚えている。

また、ミネラルウォーターに興味を持ったこともあった。おこづかいでスーパーに売っているミネラルウォーターを十種類くらい買い集め、飲み比べをしてみた。すべて無色透明な水であるのに、味が違うことに驚いた。なぜだろうと兄に聞くと、水には硬度という水に含まれるカルシウムやマグネシウムの量の違いの基準があることを教えてくれた。

その後、自分で水に関する本を読んだ。日本の水には軟水が多く、ヨーロッパの水は硬水が多いことが分かった。土地によって硬度が変わるのは、水が湧き出す土壌に関係している。ヨーロッパの地質は多くが厚い石灰岩層からなる水成岩で、その上、山から海岸までの傾斜がゆるやかなので、水がゆっくり地中を流れる間に水の中にミネラル分が

たくさん溶けていく。一方、火山国である日本の地質は、多くが軽石のような火成岩で、その上、山から海岸までの傾斜が大きいので、地下水が浸透して流れる速度も速くミネラル分が溶けにくい。

毎日の生活に水は欠かせないものであるが、安定した水道水を送るために、働いてくださる人がいる。そのことに感謝したい。

中学生になり、図書館で手に取った石牟礼道子著「苦海浄土」という本を読んだ。この本には、普通の人々の暮らしが壊されていく様子が書かれていた。漁を中心として暮らしていた街に大企業が来て、環境を考えずにたくさんの有害なメチル水銀を排水として海に流した。環境汚染による食物連鎖が起き、水俣の魚を食べた人が水俣病になってしまう。今でも水俣病によって苦しんでいる人がいるという現実には悲しくなった。技術の発展の為と言っても地球環境を取り返しのつかないほど破壊することは、本末転倒だと思う。そして、安全な水は、地球環境の保全と密接な関係があると思う。

これからも生活排水に気を付け、節水を心がけたい。また、新聞やニュースで環境問題に関する記事を読み、環境と共生するための知識を増やしていくことも必要だ。高校生や大学生になったら、環境に良いアイデアを考え、行動したい。

そして、将来私が社会人として企業に入ったら、その職場で地球環境に負担をかけない工夫や無理のない仕組みを提案していきたい。また、環境に負担をかけていることをしていると気付いたら、「それは良くないですよ。」と勇気をもって言うことができる大人になりたい。また間違えてしまったら、それを認めて正しい方向に修正できる強さを持ちたい。

ふつうの人がおいしい水を飲んで健康な暮らしができる社会を守っていききたいと思う。

「緑化推進委員会(緑の募金)の森in吉崎浜」 へ参加して

水土里ネット千葉 総務部

去る7月20日匝瑳市吉崎字浜の県有海岸保安林にて「緑化推進委員会の森in吉崎浜」の下刈り活動が行われました。

この活動は、千葉県緑化推進委員会が主体となり、匝瑳市吉崎浜の県有海岸保安林と法人の森協定を締結し、「緑化推進委員会(緑の募金)の森」と命名し、その再生活動に取り組んでいるものです。同地を海岸林再生活動のシンボリックなフィールドとして、県民や企業・団体など幅広い参加を得て実際の森づくり活動を実施しており、毎年「森づくり行事」として行われているものです。

本会でも、CSR活動*の一環として積極的に参加しており、今回で4回目の下刈り作業の参加になります。当日は、真夏の太陽が照りつける中、40名以上の参加があり、本会からも4名の有志が参加いたしました。はじめに、白石事務局長の開会あいさつがあり、それぞれの担当から、海岸林の整備状況について、病害虫被害について、鎌研ぎの実演等の説明があり、下刈り作業に入りました。

本会の2名は鎌による下刈り作業を、残り2名が刈払い機により作業を行いました。当初は、下刈り作業を午前の部、昼食休憩を挟んで午後の部とし、解散を午後2時と計画されていましたが、予想より参加者が大勢であることによる作業の進み具合、猛暑での体調維持の観点から午後1時前に解散となりました。



▲下刈り作業風景



暑い中の作業でしたが、クロマツは人の背丈程度まで成長し、しっかり大きくなった様子が見て取れました。

本会では、苗木が立派に育ち、大きな森になるまで見守っていきたいと考えています。

◀作業終了後の集合写真

*CSR活動：Corporate Social Responsibility企業が社会に対して責任を果たし、社会とともに発展していくための活動。

第23回

美しい農村環境写真コンテスト 審査会及び表彰式の開催

水土里ネット千葉
管理指導部

第23回美しい農村環境写真コンテストの審査会を7月14日に開催いたしました。「誰もが住んでみたい美しい農村環境」をテーマに毎年開催しており、今年は72名の方々から166点の作品が集まりました。たくさんのご応募ありがとうございました。

審査の結果は27点の入選作品のなかから最優秀賞(千葉県知事賞)・県土連会長賞などの各賞が決定し、その後8月31日に、きぼーる13階にあります千葉市ビジネス支援センターの会議室にて表彰式が執り行われました。受賞者の皆様、入賞おめでとうございます。表彰式では特別審査員の写真家 田村民雄 氏より「千葉県には美しい農村風景があるので、皆さんがお撮りになっている素晴らしい農村風景や観光地化された場所も、知恵を絞って新しい発見をして写真に活かしてください。来年も期待しております。」と講評をいただきました。前日から天候が心配されましたが足下の悪い中、お集まりいただきありがとうございました。



▲田村氏(前列右から4人目)と受賞者の皆様



また、作品の展示をきぼーる1階のアトリウム「きぼーる広場」で8月30日～9月1日まで行いました。今年度も入選作品に加え応募いただいた中から展示希望のあった作品を公開させていただき、大好評のうちに幕を閉じることができました。ご協力いただき、誠にありがとうございました。(次の開催案内は巻末をご覧ください。)

※応募票は水土里ネット千葉のホームページからもダウンロードできます。

作品評

講評 特別審査員 田村民雄氏
(日本写真文化協会)
(撮影者:敬称略)

最優秀賞(千葉県知事賞)



「雪化粧」

撮影場所：夷隅郡大多喜町
撮影者：井上 すみ子

めったに降る事のないであろう房総での雪景色。まだら模様の田んぼと黄色く枯れた田んぼが対照的な色彩で印象的な写真です。しっかりした構図で画面を作りあげております。

千葉県土連会長賞

「朝靄なびく」

撮影場所：柏市弁天下
撮影者：松丸 正

早朝に撮影に出掛ける途中に遭遇した景色ですね。多分相当興奮したでしょう。自然風景はその瞬間が勝負です。朝靄の雰囲気を残しながら、太陽を上手く表現しました。



特別賞(千葉県農村振興技術連盟賞)



「水路は続く」

撮影場所：成田市 撮影者：越川 美智子

パッチワーク模様の早苗田の中に、迷路のように続く水路を、デザイン的な広がりのある構図で上手くまとめてあります。見回りか散歩か、男性の立ち位置がいいです。

特別賞(ちば水土里支援パートナー賞)



「豊作と健康を念じて」

撮影場所：栄町 房総の村 撮影者：田村 雅彦

どんど焼きの一コマですね。あまりの火の勢いが強すぎて、皆さん後ろに退いてしまっています。お祭りの主役は人ですので、弱火になった時に祭りのドラマは生まれ、シャッターチャンスです。



特別賞(千葉県多面的機能推進協議会賞)



「子ども参り」

撮影場所：四街道市和良比 撮影者：名雪 誠

地元の有名なお祭りですね。お父さんに抱えられた神妙な面持ちの赤ちゃんの表情がなんとも好いです。シャッターチャンスは申し分ないですが、もっと雰囲気を活かして。

金賞



「春の農作業」

撮影場所：君津市 撮影者：菅原 譲太郎

デザイン的な構図の印象的な写真です。二人の容姿から、高齢と思われるご夫婦の作業する姿が、終わりの無い仕事をしているような錯覚を思わせる構図になっております。

銀 賞



「散歩中」

撮影場所：香取市小見川 撮影者：小堀 常雄
早苗田の中の畦道を、楽しそうに散歩する子供たちを画面いっぱいに表現しております。保母さんたちの、子供たちへの気遣いが画面から感じられ、温かさのある写真です。



「かるがも幼稚園」

撮影場所：睦沢町 撮影者：尾手 マサエ
どれが生徒か先生か？無邪気な子供園の園児たちが、かるがもを通して生命の大切さを学んでいるのですね。きっと優しい子供に成長するでしょう。画面上部をもう少し入れるように。

銅 賞

「喜び」
撮影場所：旭市長部 撮影者：渡邊 良一



秋の稲刈り体験の一コマですね。お嬢さんには良い経験になった事でしょう。非常に遠近感ある表現での撮影がいいです。ただ「はいポーズ」的な笑顔になってしまいましたね。

「自然からの恵み」

撮影場所：銚子市新町附近 撮影者：篠原 茂

青い空に白い雲、収穫前のキャベツ畑の緑、そして農作業する人の整然とした画面構成が銚子地方の広さを表現しています。もう少しポイントを絞り込んで撮ると良かったですね。



「紅の朝」
撮影場所：佐倉市
撮影者：新田 幸雄

幻想的だったでしょうね。写真からも作者の興奮が伝わってきそうです。自然写真の場合は、一期一会を大切に。構図もシャッターチャンスも良い写真です。ピントはしっかりと。



佳作



「あぜ道の春」
撮影場所…八千代市
撮影者…小野敏明

作者がどのような気持ちでこの被写体と向き合ったのか、審査の際に撮影コメントを読みたかったです。春を感じる写真ですが、空の部分を少なくすると、構図に一工夫必要です。



「瑞穂の国」
撮影場所…いすみ市
撮影者…波多野保

早朝の空気の澄んだ清々しさを感じさせる写真です。散歩中の人を画面に入れることによってドラマを感じます。緑の中に赤い鳥居が印象的ですが、電柱が目立ち過ぎますね。



「梅雨空の畦道に」
撮影場所…長生郡睦沢町
撮影者…石井幸雄

緑の絨毯を一面に敷き詰めたような畦道に、若い白鷺が一羽。臆病な鳥をよく撮ってます。ただ、あまりにも白鷺が画面中央のため、非常に平凡な構図になってしまいました。



「冬の風物詩」
撮影場所…印西市
撮影者…上出善治

普段は目に付く事の無いであろう農作業小屋が、大根と言う役者を得て目立つ存在になった訳ですね。今年もこの情景にめぐり会えると思いますので、斜光線で撮って下さい。



「水面田んぼ桜」
撮影場所…市原市 飯給駅
撮影者…山口正明

作者がどのような気持ちで、この画面と対峙したか審査の際にコメントを見たかったです。この時期には多くのカメラマンがここで傑作を競い合っておりますね。画面作りにも工夫を感じる写真です。



「実りの季節」
撮影場所…市原市 中高根
撮影者…関口武

確かに天日干しは見なくなりました。高齢化か機械化のせいですか。特にこの写真は、都市化が押し寄せる地区での農村風景。貴重な写真ですね。次は農夫を入れて撮って下さい。



「刈り入れの頃」
撮影場所…鴨川市 大山千枚田
撮影者…中田茂生

夕暮れに追われての農作業情景ですね。夕陽の照らされた「おだかけ」を印象的に表現しています。良く計算された画面構成です。野焼きの白い煙がもう少し上にたなびくと良かったですね。



「収穫」
撮影場所…白子町
撮影者…牧元晴美

大きな玉ねぎが出来ましたね。この子の嬉しそうで真剣な眼差しが、玉ねぎ掘り体験の楽しさを良く物語っております。ただ、画面の整理が雑然としているのが残念です。



佳作

「ちよつと前を失礼！」

撮影場所…宮町
撮影者…松本幸雄



田植えのお祭りの一コマですか。魚眼レンズを使用しているコーモアある写真です。前を横切る神主さんの姿がなんと滑稽ですが、巫女さん達にも動きがあればもっと良かったですね。

「印旛沼からの富士山」

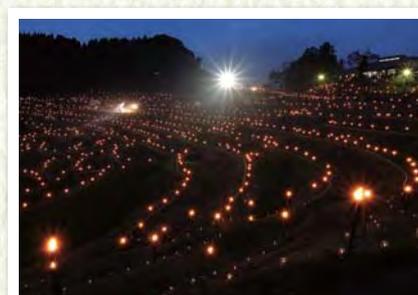
撮影場所…成田市松崎
撮影者…鈴木康雄



良く撮りましたですね。印旛沼から富士山迄はほぼ150キロあります。よほど空気の澄んだ日だったでしょう。ダイヤモンド富士より笠雲の富士より、ある意味価値ある写真です。

「地上の銀河」

撮影場所…鴨川市大山千枚田
撮影者…伴博之



ライトアップされた棚田の情景を良く捉えております。撮影時間帯の計算や光芒の出し方は基礎がしっかりしている証拠です。少々画面が平凡になっているのが惜しいです。

「案山子の自慢」

撮影場所…印西市
撮影者…小野喜作



おい!案山子よ、ちゃんと見張ってよ!と声を掛けたいような愛嬌のある案山子ですね。彼岸花との配色を考えたバランスの良い写真です。動きのある被写体がほしかったですね。

「佐山の田圃」

撮影場所…八千代市佐山
撮影者…梅川記生



非常に透明感のある清々しい写真に仕上げました。天気の良い、凧の日を選んで撮った訳ですね。この写真は空の部分より、早苗田にポイントを置いた方が良いと思います。

「早春」

撮影場所…鴨川市
撮影者…井上すみ子



春の日差しが画面いっぱいに表現されております。日陰には未だに遅霜らしき跡が感じられますが、菜の花摘みしているお祖母ちゃんには春の日差しがいっぱい注いでますね。

「真っ赤だね」

撮影場所…君津市久留里城山郷
撮影者…平野博之



畦道を楽しそうにお話しをしながら散歩をしている親子を良く捉えております。親子の動きも構図も、しっかりした写真になっております。プリントにも少し気を使って下さい。

「晩秋の入日」

撮影場所…富里市新橋
撮影者…田村雅彦



ポッチですか?いいロケーションですね。ただ、暮れゆく夕日に見とれ、農家の方の思いを巡らしているうちに、日はどんどん落ちてゆき、画面構成が雑になってしまいましたね。



Beautiful farm village environment

美しい農村環境

第24回

写真コンテスト

平成30年 6月11日(月) (当日消印有効)

応募締切

あなたが見つけた美しい農村や農村環境、農村におけるさまざまな活動を写真におさめてみませんか。



第23回 千葉県知事賞



第23回 千葉県土連会長賞



第23回 千葉県農村振興技術連盟賞

テーマ 誰もが住んでみたい美しい農村環境



第23回 千葉県多面的機能推進協議会賞



第23回 ちば水土里支援パートナー賞

応募規定

■千葉県に在住、在勤または在学の方なら誰でも応募できます。

■応募作品

- 千葉県内で撮影された未発表のものに限ります。
- カラープリントの単写真で1人3作品までとします。
- 写真サイズは四つ切りサイズ(四つ切りワイドでも可)及びA4サイズとします。
- 合成写真や過度の画像補正などの加工した写真は対象外とします。
- 入賞作品は1人1点とさせていただきます。ただし佳作はこれに限りません。
- 入選作品の著作権は応募者本人に帰属します。なお、著作権は主催者及び後援者に帰属するものとし、広報のための資料や、ポスター・チラシ・ホームページ等に無償で使用させていただきます。
- 入選作品は後日、原版(ネガ、ポジ、デジタルデータ)の提出をお願いします。
- 入選作品以外の応募作品も展示会等において展示することがありますので、ご了承ください。(展示を希望しない場合は必ず応募票記載欄の「希望しない」を○で囲んでください。)

■その他

- 応募票(コピー可)は全て記入し応募作品の裏に貼り付けてください。

応募締切 平成30年6月11日(月) (当日消印有効)

〔応募先〕〒261-0002 千葉市美浜区新港249番地5
水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)
管理指導部 指導課
TEL 043-241-1728(直通) FAX 043-248-2574

注意事項

- 撮影の際は農地や農業施設への無断立ち入りや農地を荒らす事の無いよう注意してください。
- 応募作品は原則として返却いたしません。返却を希望する場合(入選作品以外)は、送料相当分の切手と返信封筒を同封してください。同封が無い場合は返却することができませんので、ご了承ください。
- 複数作品を応募する際は、それぞれの作品に汚れや傷が付かないように送付してください。
- 応募作品の取り扱いについては汚れ・破損などに十分注意いたしますが、万が一の事故に対する責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 被写体が人物の場合は、必ず本人の承諾を得てください。未成年の場合は親権者の承諾も必要です。(被写体の肖像権侵害等については応募者の責任とします。)
- 他のコンテスト等で入選した同一作品または類似作品の応募は出来ません。
- 要件に違反した場合は、発表後でも作品の入選を取り消す場合があります。
- 応募票に記入していただいた個人情報、本会の個人情報保護方針に基づき適正に取扱い本コンテストの目的以外に使用することはありませんが、入選作品の発表や作品展示にあたり氏名・住所(市町村名まで)・性別・年齢を公表する場合がございます。

各賞

- 千葉県知事賞 … 1点(賞状・副賞)
- 千葉県土連会長賞 … 1点(賞状・副賞)
- 特別賞 …… 3点(賞状・副賞)
- 金賞 …… 1点(賞状・副賞)
- 銀賞 …… 2点(賞状・副賞)
- 銅賞 …… 3点(賞状・副賞)
- 佳作 …… 数点(賞状・副賞)
- 参加賞 …… 入選者以外の方に粗品進呈

水土里ネットちば 316号 (平成29年11月発行)



発行

水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)
〒261-0002 千葉市美浜区新港249番地5
TEL.043-241-1711(代) / FAX.043-248-2563(代)

印刷

株式会社ニッセイアド
〒264-0026 千葉市若葉区西都賀4-18-3
TEL.043-206-7752 / FAX.043-206-7753